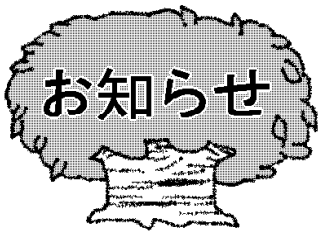
旭ヶ丘キリストの教会　ニュース



《今週の歩み》

３／８（日）聖日礼拝
　／９（月）
　／10（火）
　／11（水）
　／12（木）10：00祈り会
　／13（金）
　／14（土）13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》

①加藤祐介・奈緒夫妻のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちの救いのために

良書ハイライト

「ボク、ここにいるよ」

（「百万人の福音」バックナンバーの中から『涙のち晴れ』より）

ロジャーさん一家は、信仰心に篤い両親と、子ども三人の家庭です。ある晩のこと。その日は末っ子のジミーが、自分がもらってる永遠のいのちとはどんなものか話す番でした。七歳の彼はこう言いました。「あのね、僕たちみんな、いつか天国の門のとこに行くでしょ。そしたら、でっかい天使が出てきて、持っている本を開いて、天国に入る人みんなの名前を呼ぶの。うちの家族のとこにも来て、まず『お父さんはいますか？』と聞いたら、父さんが『ハイ、ここにいます』って答えるでしょ。つぎに天使が『お母さんは？』とおっきな声で呼んだら、母さんも『ハイ』と返事するの。それから天使はこっちにも来て、兄さんと姉さんの名前も呼ぶんだ。二人とも『ハイ、ここでーす』と言うの」。ジミーはそこで、大きく息を継いでから続けました。「最後に、そのおっきな天使は『ジミー・ロジャーはいますか？』って、僕の名前を呼ぶんだ。僕が小さすぎて天使に見えないといけないから、僕、ジャンプして、すっごく大きな声で、天使に分かるように『ハーイ』って言うんだ。」

大事故が起こったのは、その数日後です。スクールバスに乗り遅れそうになって急いで道を渡ろうとしたジミーが、車と衝突したのです。救急病院に運び込まれ、家族全員が駆けつけた時には、ジミーは重態でした。家族に囲まれてベッドに横たわるジミーの体は動かず、意識もまったく戻りません。医者たちは全力を尽くしましたが、どうすることもできず、小さい命は、もう、翌朝までもちそうもありませんでした。

家族は祈りつつ、片時もそばを離れませんでした。真夜中近く、ジミーにほんの少し意識が戻ったような気配が感じられました。みんながいっせいに枕元に顔を寄せた、その時、ジミーの唇が動きました。それは、この地上の生涯で彼が最期に残した、たった一つの言葉でした。しかし、後に残された家族にとって、それはなんと慰めと希望に満ちた言葉だったことでしょう。ジミーは、全員がそれと聞き取れるほどはっきりした声で、こう言ったのです。「ハーイ」。そして、ジミーは息を引き取りました。